

主日礼拝

2023年3月26日
午前10時30分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「¹⁹神の求めるいけにえは打ち砕かれた靈。
打ち砕かれ悔いる心を
神は侮られることはない。」 詩編 51:19 による(讃美歌 21-33)

頌栄 27 「父・子・聖霊」

ち ち 子 せ い れ い の ひ と り の 主 よ、 さ か え と ち
か ら は た だ 主 に あ れ、 と こ し え ま で。

ア ー メ ン。

受難節のリタニー

《受難節第5主日》

司式者：弟子たちと同じように私たちは、がっかりすることによって、なにもできなくなったことがあります。これからは希望を失わないで、その希望による勇気と力で行動できるものとしてください。

会衆：主よ、私たちをあわれみ導いてください。

司式者：イエスさまがみずから十字架を背負いゴルゴダの丘へと歩まれ、すべての苦しみを引き受けられて息を引き取ったことをおぼえて、このろうそくを消します。(消火)

祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。
アーメン。

聖書 ルカによる福音書 20:2～19

新約(新共同訳) p148~p149

2 言った。「我々に言いなさい。何の権威でこのようなことをしているのか。その権威を与えたのはだれか。」 3 イエスはお答えになった。「では、わたしも一つ尋ねるから、それに答えなさい。4 ヨハネの洗礼は、天からのものだったか、それとも、人からのものだったか。」 5 彼らは相談した。「『天からのものだ』と言えば、『では、なぜヨハネを信じなかったのか』と言うだろう。6 『人からのものだ』と言えば、民衆はこそって我々を石で殺すだろう。ヨハネを預言者だと信じ込んでいるのだから。」 7 そこで彼らは、「どこからか、分からない」と答えた。 8 すると、イエスは言われた。「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい。」

9 イエスは民衆にこのたとえを話し始められた。「ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して長い旅に出た。10 収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために、僕を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの僕を袋だたきにして、何も持たせないで追い返した。11 そこでまた、ほかの僕を送ったが、農夫たちはこの僕をも袋だたきにし、侮辱して何も持たせないで追い返した。12 更に三人目の僕を送ったが、これにも傷を負わせてほうり出した。13 そこで、ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう。』 14 農夫たちは息子を見て、互いに論じ合った。『これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる。』 15 そして、息子をぶどう園の外にほうり出して、殺してしまった。さて、ぶどう園の主人は農夫たちをどうするだろうか。16 戻って来て、この農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがいない。」 彼らはこれを聞いて、「そんなことがあってはなりません」と言った。 17 イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。

『家を建てる者の捨てた石、
これが隅の親石となった。』

18 その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」 19 そのとき、律法学者たちや祭司長たちは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと感じたので、イエスに手を下そうとしたが、民衆を恐れた。

賛美 313(1,3,5) 「愛するイエス」

Herzliebster Jesu, was hast du verbrochen
 詞：Johann Heermann, 1585-1647

HERZLIEBSTER JESU
 曲：Johann Crüger, 1598-1662

① 愛するイエス、なにをらなさんれり
 ② 愛するイエス、なにをらなさんれり
 ③ 愛するイエス、なにをらなさんれり
 ④ 愛するイエス、なにをらなさんれり
 ⑤ 愛するイエス、なにをらなさんれり

- ① 愛するイエス、何をなされて
 こんなさばき 受けられたか。
 どんないを おかされたのか、
 愛する主は。
- 2 鞭打たれ、茨の冠
 かぶせられ 蔑まれた。
 酸いぶどう酒 十字架の上で
 口にされた。
- ③ これほどの 痛み苦しみ
 何のために 受けられたか。
 ああ私の 罪を担われ
 苦しめられた。
- 4 羊飼いは 羊のために
 その命 あえて捨てる。
 正しい主 がしもべのために
 罪を担う。
- ⑤ なんと深い 主のみ心よ、
 なんと広い イエスの愛よ。
 責め苦の道 歩まれたのは
 私のため。

説教 「人は捨て、神は始められる」

賛美 315 「茨の冠かぶせられ」

詞：桃井綾子, 1932-

IBARA
 曲：山元富雄, 1941-

1 いらのかんむりかぶせられ、
 2 十字架のうえで「エリ、エリ」と、
 3 「おゆるしてください 天の父」。

- 1 茨の冠 かぶせられ、
 十字架背負って 歩かれる
 イエスさま。
- 2 十字架の上で 「エリ、エリ」と、
 神さま見上げて 叫ばれる
 イエスさま。
- 3 「おゆるしてください 天の父」。
 祈って罪人 ゆるされる
 イエスさま。

派遣

司式者 主は言われます。
 「わたしは誰を遣わすべきか。」
 会衆 わたしがここにおります。
 わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

司式 岡田 知恵子
 説教 向井 希夫牧師
 奏楽 福原 之織

※お立ちになるのが困難な方は、
 座ったままで礼拝をお守り下さい。
 ※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。